

評価委員会総合評価

研究課題名：(地方共同研究)気象レーダーを用いた噴煙の汎用的解析手法に関する研究
評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高藪出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成29年2月17日

1. 総合評価

- (1) 採用の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

現業気象レーダーによる噴煙解析は実用化が期待できるテーマであり、常時監視とデータが得られる鹿児島地方気象台と共同研究を行う意義は大きい。手法の限界についてもまとめる姿勢は正しいと思われる。

研究というよりは技術移転、技術指導の面が強い内容であるが、気象研究所で実施している重点研究「大規模噴火時の火山現象の即時把握及び予測技術の高度化に関する研究」の成果を気象庁業務に実用化するためにも、有効な地方共同研究と考える。

移流拡散モデルの精度を上げるには、初期条件が極めて重要であり、本研究の目の付け所は要を得ている。

火山の噴火に対する国民的関心の高さ、防災上の意義を考えると、昼夜・天気の影響を受けにくい観測手法が求められている。

気象レーダーによる火山噴煙解析という新しい技術を地方に展開し、現場職員のスキルアップを図ることは気象庁の火山監視にとって重要であり、ぜひ推進すべきである。

本研究の目的、進め方は適切であり、目標についても概ね適切である。研究の成果も概ね期待できると判断できる。今後は以下の点に留意しつつ、提案された研究計画を進めるべきである。

- ・全体の到達目標をより具体的にしておくこと目標設定と事後の評価がよりクリアにできると考えられる。
- ・成果のとりまとめにおいては、その後の業務マニュアルにつながるような報告物を作成してほしい。
- ・気象研究所から地方官署への技術移転の要素が大きい。年に一回程度の講習で十分なのかどうか、国内旅費を計上しなくて大丈夫なのか。技術移転について留意して確実に実施してもらいたい。
- ・降水と重畳した場合など、難度の高い事例へも適用可能な手法の開発は望ましい

が、最初から難しい事例を取り上げるのではなく、確実に適用可能な事例を増やしていくといったかたちで成功体験を重ねながら進めるといったことも良いのではないか。また、火山を対象とするとコミュニティが小さいが、使うのが気象レーダーのデータであることから、アプリケーションの開発や各種検討においては、気象のコミュニティとの連携を図ること（地台に限らず、気象研でも）も有効であると考えられる。